若者世代・子育て世代に厳しい日本社会を問う

湯浅誠 Makoto YUASA
社会活動家。法政大学教授。2008年末の年越し派遣村村長を経て、2009年から足掛け3年間内閣府参与に就任。

12月20日 14:00～ せせらぎホール

12月20日に湯浅誠さんの講演会を準備中です。新自由主義・競争社会が激化し、階層の二極化が進む中「若者世代、子育て世代に厳しい日本社会を問う」をテーマに、今、地方自治体にそして私たちに出来ることは何かを皆さんと共に考えたいと企画しました。

高柳忠夫県議会議員が9月議会で「子どもの貧困」対策について代表質問を行いました。子どもの貧困の実態は深刻です。平均的な所得の半分（年122万円）を下回る世帯で暮らす子どもの割合である「子どもの貧困率」は、2012年では16・3％と過去最高でした。うち、ひとり親世帯での貧困率は54・6％。ともに先進国の中で最悪の水準となっています。

2006年から2012年の6年間に全年齢層の相対的貧困率は0・4ポイント上昇したのに対し、子どもの貧困率は2・1ポイントと5倍もの上昇率となっています。そして、パートや派遣などの非正規雇用者の割合はこの20年間でほぼ倍増しています。共に考えましょう。

稲刈りをします！
―耕さない田んぼでの酒米づくり―

今年も耕さない田んぼで、稲が健やかに育ちました。
このまま順調にいけば10月下旬に稲刈りができそうです。
多くの人たちと田んぼで汗を流し、手塩にかけた稲たちです。
（一本一本丁寧に植えた田植え、他の草々に負けないよう手を貸した（草刈りをした）暑い夏の日……）

耕さない田んぼでの田植え
（水は全部植え終わってから）

「面倒くさくて、しんどいこと」
「時間がかかり、すぐには結果が出ないこと」
今の世の中では、一見、価値のないように思えることです。
が、しかし
汗をかきながら、みんなで、
「面倒くさくて、しんどいことをじっくり時間をかけて、結果を出す」
そして、みんなで美味しいごはん・旨い酒を囲み、みんなで笑顔になる！
本当の豊かさを感じる瞬間です。
こちらも、10月26日につどっての稲刈りを予定しています。
汗を流して、稲刈りをした後、昨年に収穫した酒米で乾杯（五反原にいも掘りとは時間差で合流します）します。
良質なお酒は、心の垣根を上手にとかしてくれます。
良かったら一緒に汗を流してみませんか。
連絡先　76―1221（石尾）

生駒フォーラム・市民農園部

五反原に秋が来た

さつまいも、黒豆の収穫祭

10月26日(日)

日　程
9:30～ 萩の台駅 集合
10:00～ さつまいも掘り
(1株100円)
黒豆の枝豆採り
(1株200円)
12:00～ 食事
音楽(オーボエの演奏)
五反原・散策
適宜解散

軽い食事　チケットを販売
・ピザ窯で焼いたピザ(100円)
・イカ焼き(100円)
・カレーライス（100円）
・焼きいも（50円）
・黒豆の枝豆(無料)ロケット
ストーブコンロでゆがきます

五反原散策、「五感」で秋に触れる

五月に2000本のさつまいもの苗を植えました。生駒フォーラムの記事を見て参加した家族づれ、シャープ・パナソニックの電機連合の子どもさんがいっぱいのグループ、奈良交通の運転手さんたち、最近五反原に参加している若いママパパが子どもさんと一緒に100名ほどで植えました。秋になりました。植え方が良かったのでしょう。草にも負けず、大きく育ちました。みんなで収穫です。
五反原の草刈りをして、皆さんをお待ちしています。

参加申し込み：市民オフィス（71-7700）締切10月20日

NO. 112
発行責任者
高柳　忠夫
（奈良県議会議員）
事務局 東新町2－10
市民オフィス内
TEL. 71-7700
FAX. 71-7800
http://www1.kcn.ne.jp./~forum/
E_mail. forum@kcn.ne.jp

好評です　顔の見える農家とつながる お米の共同購入のご案内

実りの秋を迎えた田んぼ、生駒でも稲刈りも始まり、美味しい新米ができました。玄米食や米パンが静かなブームとなっています。食のあり方が問われている中で、身近なところで作られた、農家の顔が見える安心の食材を使う「地産池消」「お米の共同購入」の取り組みを今年も行います。

・**御杖村の玄米**・30kg　9000円(大変好評のため、予定数近い予約が入っています。早い目にお申し込み下さい)
・**大和郡山産（NPOあぐり）玄米**・30kg　8000円
申込先：市民オフィス（71-7700）配達あり
・**地元南田原産の玄米**・30kg　8500円
申込先：西田さん（79-2697）配達あり
☆市民オフィス前で　白米：3kg　1000円販売中

失敗しない「つるし柿」の作り方も伝授

西吉野／柿の里めぐりバスツアー

紅葉の秋、柿の季節がやってまいりました。
今年も好評のバスツアーを企画しました。健康によい秋の果物・柿と、秋野菜の「地産地消」の体験・買い物ツアーと五條市立文化博物館を訪ね、五條の文化と歴史を様々な形で楽しく 知っていただければと思います。

日　時：11月15日（土）集合場所：生駒駅南側　AM 8：00出発
費　用：4000円（昼食付）主催：生駒フォーラム市民農園部
申込み先：市民オフィス　TEL 71-7700　〆切：10月31日(金)

▼五條文化博物館本館「ごじょうぱうむ」

▼昨年の柿ツアー、柿博物館前で集合写真

閣議決定は密室のクーデター
集団的自衛権の行使を許してはならない

「7／1クーデター」ともいわれます。安倍首相、憲法99条の憲法の尊重・擁護義務に反し、憲法96条の改憲手続きを無視し、首相がどのように主張しようが「日本国憲法9条は集団的自衛権の行使を認めていない」と言うのが、戦後一貫した内閣法制局や日本政府の見解でしたが、9条の平和主義をないがしろにする集団的自衛権の行使を容認する閣議決定を行いました。集団的自衛権に関しての憲法上の制約は解釈改憲でなくなり、次は関連法案をしめす段階になります。それを見ればより具体的な戦争のできる国づくりの実態が見えてきます。危険な方向に進んでいることに私たちの住んでいる生駒からNoの声をあげていきます。8月1日「子どもたちに核のない未来を」「集団的自衛権の行使容認に反対」を訴え、生駒市役所を出発し、平群町・三郷町、王寺町まで平和行進を行いました。

高柳忠夫県議は、生駒市役所前での出発式で、「戦争のできる国へと大きく政府が舵を切っていることに気を奪われているうちに、私たちの身の回り、社会のセーフティーネットや、働く人を守る大切なルールなどが知らぬ間に改悪の方へと進んでいる。非正規の労働者が増え、格差の拡大が進んでいる。平和を求め、生活の場、働く場、学ぶ場から市民の声を上げよう」と訴えました。

生駒駅頭で戦争できる国づくりに反対する高柳忠夫県議

5月、駅頭での署名活動する戦争をさせない奈良1000人委員会

特定秘密保護法反対のデモに参加する生駒フォーラムのメンバー

精神障害者に対する福祉医療制度の適用を求める請願書が生駒市議会　市民福祉常任委員会で全員起立でもって可決。一歩前進。

8月27日、奈良県文化会館にて『精神障害者の福祉医療　早期実現を求める緊急集会』が開催されました。会場は351人の参加者で溢れかえり、当事者、家族、関係者の制度実施への強い『願い』が一つになりました。

「生駒市においても県と同じ方針、精神障害者保健福祉手帳1級および2級所持者に福祉医療制度を早急に実施すること」を求めて、生駒地区精神障害者家族会（ひだまり家族会）が市議会に請願し、9月24日市議会市民福祉委員会で可決されました。

請願理由の「精神障害者の低就労率、低所得の生活実態と医療費の必要性」では、県の調査では、精神障害者手帳所持者の中で「一般就労」率は5・8％で、在宅障害者数に対する就労率は、身体27・9％、知的26・6％に対して精神は1・6％で、就労率は身体・知的障害者と比べても桁違いに低い状況です（抜粋）：と訴えていました。

この生駒フォーラムが読まれるときは本議会で可決されていると思います。この福祉医療制度が、身体・知的・精神の3障害者の共通した「生活」の基盤をつくるものになり、今後の障害者福祉施策の最も重要な制度となります。

8月3日　五反原の里で「水てっぽう作り」

6月19日　JR奈良駅前にて

8月1日　非核・平和行進

県立高校にエアコン設置を求める　高柳忠夫県議

現在、県立高校33校中14校にエアコンの設置がされており、エアコンの設置校すべてが、県費ではなく育友会負担です。　いま県立高校33校には、33の「学校間格差」があると言われています。県教委に調べてもらったところ、普通教室にクーラーの設置されている高校と設置されていない高校の「高校中退率」は、設置されている高校では0.32%、設置されていない高校では4.11%でした。実に12.8倍の中退率です。保護者の経済力の格差が学校の教育環境の差となって現れ、学校間格差の拡大につながることを危惧します。すみやかに、全ての県立高校へのエアコン設置の実施計画を策定する必要があると考えます。ご意見をお寄せ下さい。

県立高のエアコン

「県が全体計画を」
県議会代表質問で指摘

2014.9.20.
毎日新聞より

県議会の代表質問で19日、県立33高校のうち14校の普通教室（ホームルーム）で県費でなく育友会がエアコンを設置している現状が取り上げられた。民主党の高柳忠夫議員は「保護者の経済力の格差が教育環境の格差につながる」と指摘。吉田育弘教育長は、設置状況や費用負担のあり方など県外の状況を実務者レベルで調査中とし、「今年度内に取りまとめるために、情報収集、議論を加速化したい」と答弁した。

高柳議員は質問で、普通教室へのエアコン設置校は中退率が0・32%なのに対し、未設置校は4・11%と開きがあると示し、「何らかの理由で中退せざるを得ない生徒が集まっている可能性の高い学校こそ、県が設置するのが公の役割では」と指摘。「県として全体の設置計画を立てるべきではないか」と求めた。

議会後、吉田教育長は教育予算について「校舎の耐震化の早期完了という大きな課題がある」と述べ、来年度の予算編成には結論が間に合わないとした。今後の見通しについて「未設置校の校長から必要性について個別の事情を聞くなど、なお時間がかかる」と話した。【松本博子】

「認知症ケアパス」って、なあに。

認知症ケアパスとは「認知症の人は精神科病院や施設を利用せざるを得ない」ではなく「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続ける」ことを基本に、認知症の人の状態に応じた適切なサービス提供の流れを定めるという、これまでの「ケアの流れ」とは違った新たな視点の施策のことです。

後期高齢者が多くなればなるほど、加齢に伴うさまざまな支障を抱える高齢者が増えることにつながり、要介護認定率も上昇し、介護サービスを利用する人が増えます。また、要介護認定を受けている者のうち、約半数に近い人が認知症状を有しているという推計もあることから、認知症に関する問題は自治体の重要な課題であるといえます。

国は今年度中に各市町村が「認知症ケアパス」の構築を行い、第6期の介護保険事業計画に反映させるものとしています。しかし「認知症ケアパス」が何なのか理解を示している市町村は少ないのではないかといわれています。

奈良県内でどれだけの市町村が「認知症ケアパス」を作成しているのか、県が把握している市町村数について高柳忠夫県議が9月議会で代表質問したところ、知事答弁では、「認知症ケアパスを作成している自治体はゼロです」でした。認知症対策はこれからです。

作ってみました　ロケットストーブ・コンロ

ロケットストーブ・コンロは燃焼効率が良く薪が少なくて済む、素晴らしいコンロでした！

7月20日、一緒に作ろう！の呼びかけに、子ども連れのグループを含め8グループ30人ほどが五反原に集まりました。暑い一日でしたが昼までに完成、テストをしてみると、少ない木切れでも完全燃焼するため、すごい火力でした。キャンプや被災地では「優れもの」です。

この企画で、素晴らしい出会いがありました。無料のペール缶を探しているとき、市民オフィスに「ペール缶20個ほどあります。使って下さい」と電話があり、事務所に持ってきて下さいました。話を聞くと「東日本大震災の時、ロケットストーブ・コンロを被災地に大量に送った、残りです。」とのこと。生駒で素晴らしいボランティア活動をしていた女性に出会うことが出来ました。生駒フォーラムは、「福島を東北を忘れない」催しをこれからも企画しなければと感じました。